

下関市総合計画審議会  
第3回にぎわい部会  
議事要旨

日 時 令和6年6月18日(火) 午後1時～3時

場 所 下関市役所本庁舎5階大会議室

出席者 乙部委員、松野委員、河村委員、中原委員、田中委員、五十嵐委員  
西本委員、杉浦委員、妹尾委員、富永委員、渡壁委員、中西委員

オブザーバー 各部局長

議題

- 1 第2回の振り返り（委員意見への対応と素案修正）
- 2 総合計画の目標指標（KPI/KGI）
- 3 主な取組（旧：重点事業）
- 4 今後の予定

## 1 本日の審議（第2回の振り返り（委員意見への対応と素案修正））

資料を用いて、事務局より説明。

（委員）

○デジタル系の言葉（RPA など）は難しいものが出てくる場合の注釈などの対応はいかがか。

（事務局）

○用語については現計画同様、後半に注釈を入れる方向で考えている。

## 2 総合計画の目標指標（KPI/KGI）

資料を用いて、事務局より説明。

（部会長）

○当部会に直接関係しないが、人口増加を目標数値に掲げないのか。初めから諦めており人口は減っていくことが前提での取組なのか。

（事務局）

○他部会でも KGI もしくは基本構想の部分で人口増加を掲げたら良いのではないかと質問があった。将来人口推計で合計特殊出生率が2を超えると人口減少が抑制できると示しているが、どのような施策がすぐに反映されるかという想定は難しい。

今、本市では1年で3,500人が減っている中で、1,000人が社会減による転出で、残りは自然減である。社会減や自然減を抑制する目標は立てられるが、結果が見えない中で人口の目標値を設定しにくいので明記していない。

人口減少下でも市民の生活の向上や生産性の向上は喫緊の課題なので、そういう環境を作ること、少なくとも人口増加の原因である出生数が増える環境や、生産性の向上によって若者の就職先が増えることを目指している。このように人口減少の抑制を目指している中で、現状、具体的な人口の目標値は記載できていない。

（委員）

○指標として人口を入れた方が良いと思う。本市の最大の課題が人口減少である中、そこを解決できれば、他の問題も解決する。

他の要因も多々あるので指標化するのは難しいが、例えば将来人口推計を基準値にして、それより減少が緩やかであれば良いという考え方もできる。あるいは、将来も住み続けたいと思ってる人の割合など。間接的な内容でも良いと思うが、もう少し人口をゴール目標に見据え指標があると良い。

（事務局）

○人口について数値的な目標を掲げることは、ある程度の根拠を示す必要があるので、やや難しいと考える。人口減少対策は、市の全施策が相まった上での結果でもあり、カンフル剤となる施策はない。

一方で市民実感調査、アンケート調査でも、住みたい、住み続けたいかという設問は、市民、中学生、高校生、大学生に調査しているので、それらを定性調査として記載することは可能と考える。

（委員）

○将来の夢や目標を持っている子どもの割合について、学習状況調査等を用いているが、優秀な子どもが育つほど下関を出てしまう矛盾があり整合性が難しい。また、KGI 健康寿命の延伸につ

いても、子どもの数を減ってきて逆ピラミッド型になる中では、相反する指標ではないのか。こうした目標を達成すればするほど人口が減って停滞するジレンマを感じる。むしろ教育のまちとして可能性を突出させていくのであればわかるがやはり矛盾は感じる。

学力を向上させ良い大学に行こうとすると関西か関東に行ってしまう帰ってこない。これは大学を卒業した後の選択肢が少ないのが原因。就職についても市内企業として志望者が少ない状況。人口をぜひ増やすという心意気が欲しい。若者が市外にどんどん転出する一方で教育のまちになって、子どもの教育のために全国から移住してくる方向を検討いただきたい。

(総務部)

○市職員の採用については平成 30 年度から移住定住促進枠を設け 30 人程度が戻ってきて頂いている。これまで採用試験は市立大学を借りて実施していたが、東京事務所でも実施している。さらにテストセンター方式により全国 350 か所で実施する取組も進めていくことで、経験を生かした就職も期待している。

(事務局)

○KGI の矛盾についてはご指摘の通りの部分もある。

今回実施した、中学生 2 年生 1,600 人へのアンケート調査では 388 人が住みたい、259 人が住みたくないとの結果で、住みたくない回答をした人にとっての住みたいところは男女差なく福岡県が多く、賑やかさや将来の進路の選択肢を増やしたいとの理由であった。

高校 2 年生のアンケート調査 1,200 人では、310 人が住みたい、270 人が住みたくないとの結果で、住みたいところも理由も中学生と同様だった。

市内大学に通う 300 人の市外出身大学生へのアンケートでは、大半が住みたくない・残らないとの結果であり、最大の理由は交通の便が悪いことで、大半が地元に戻るとの結果だった。

本市は 23 歳から 30 歳の転出者数が他の自治体よりも多いので、出身者が下関に戻ってくる、関係人口を増やして新たな人を呼び込む施策によって打破していきたいと思っている。

(副部長)

○合計特殊出生率を増やす KGI は難しいということであったが、理由を教えてください。

合計特殊出生率は価値のある数字で、一番分かりやすく設定すべきという気がしている。出生率の増加は、一番注力すべき施策であり KGI に設定できないのか。現状ではワクワクするものが少ない。

(事務局)

○本市が 1.3 で推移する中、94%の子どもを産んでいる 20 歳から 39 歳の女性が減っているが、過去 10 年で配偶者率はあまり変わっていない。一方で有配偶者出生率は減っているので、子育て施策を行っている。様々な要因がある中で、具体的な合計特殊出生率を設定するのは難しいので目標として設定していない。

合計特殊出生率を指標として、子育て分野の KPI に設定できるかは所管部局と相談の上で検討する。

### 3 主な取組 (旧：重点事業)

資料を用いて、事務局より説明。

(委員)

○芸術文化活動の推進

記載はとても良いが下関市立近代先人顕彰館、通称田中絹代文化館も記載しており、林伊佐緒の

名前もある。以前の部会で固有名詞をあげることが難しいとのことであったが、藤原義江や小暮実千代も考えられる。全国からたくさんの観光客が来られるので、本市ゆかりの先人たちすべての方の情報発信をした方が良いのではないかと考える。漏れがない形で対応いただきたい。

(観光スポーツ文化部)

○「・本市にゆかりのある先人の顕彰・情報発信【顕彰館での田中絹代等の所蔵品展や林伊佐緒等の特別展開催、その他イベント情報等の発信】」を「・本市にゆかりのある先人の顕彰・情報発信【顕彰館での所蔵品展や特別展の開催、その他イベント情報等の発信】」に変更する。

(委員)

○芸術文化活動による国際交流

朝鮮通信使が記載されているが、青島との文化交流もある中、偏っているのではないか。国際交流と文化交流は分けるべきではないか。

(観光スポーツ文化部)

○国際交流と文化交流を分けるため、「・市民参加型国際交流イベント等の開催」を「・市民参加型国際文化交流イベント等の開催」に変更する。

(総合政策部)

○国際交流は4節に掲載している。姉妹都市との文化交流については1節で記載されるものと考ええる。

(委員)

○芸術文化活動の拠点として市民会館を記載しているが、生涯学習プラザはホールの評価も稼働率も高いので、市民会館の稼働率だけをKPIにするのはいかがか。

(観光スポーツ文化部)

○市民会館の稼働率については、今回の総合計画KPIとして設定の予定はない。委員にお示したのは、現在の計画における目標指標（市民実感調査）について、関連の深い事業の一つである市民会館の年間利用者数。今後は、市民実感調査の結果を定期的に把握してまいりたい。

(委員)

○市民1人当たりのスポーツ施設年間利用回数は民間施設利用者も含むのか。最近では民間施設も多いので考慮した上で設定すべきではないか。

(観光スポーツ文化部)

○目標設定において、正確に利用実態や利用回数を把握するため、KPIは公共施設のみのものとした。

(委員)

○受入環境

語学ボランティアとあるが、観光ガイドもできる語学ボランティアと明確にした方が良いのではないか。また、釣り文化振興促進モデル港はどのようなものか。どこでも釣りをするのを推進するのか。

(観光スポーツ文化部)

○「観光ガイド」のレベルに差があることから、「語学ボランティア等」の表現としいる。

(港湾局)

○下関港に3か所（新港地区（長州出島）、あるかぼーとエリア、巖流島釣棧橋）で釣りを促進する施設を登録している。長州出島など普段は入れない場所で特別にイベントを開催するなど子ども中心に釣り文化を体験してもらうことを促進している。ルール・マナーの教育も含め取り組んでいる。

(委員)

○MICE (マイス)

英語の説明ではなく、日本語・漢字で説明した方が理解しやすい。MICE 誘致には交流人口の増加に効果的で、そのためには将来を見据えた誘致活動を行っているので、その価値を示していただきたい。

(観光スポーツ文化部)

○事務局と協議し、本文中に日本語まで記載すると長くなるため、カッコは削除し、巻末の用語集でご意見を踏まえた対応をする。

【参考】

MICE とは、企業等の会議 (Meeting)、企業等の行う報奨・研修旅行 (インセンティブ旅行) (Incentive Travel)、国際機関・団体、学会等が行う国際会議 (Convention)、展示会・見本市、イベント (Exhibition/Event) の頭文字を使った造語 (参照：観光庁 HP 「MICE とは」)

(委員)

○芸術文化活動の拠点施設等の整備・充実と情報の発信

アブニール等となっているが、豊北・豊田生涯学習センターなど具体的な施設名も明記した方が良い。

(観光スポーツ文化部)

○豊北・豊田生涯学習センターをはじめ各地域の施設は、いずれも芸術文化活動の拠点的役割を担っている面もあるが、市民会館に準じる役割を担う施設として2施設を例示することとし、原文のままをいたしたい。

(委員)

○KPI で観光客数・宿泊客数となるが、外国人の数は別に把握できるのか。外国人観光客数の効果測定はどうしているのか。必要だと思う。

(観光スポーツ文化部)

○現状、外国人宿泊客数ではカウントできているが、観光客数で日本人と外国人は区別できていない。様々な指標やデータで傾向を把握するなどしたい。

(委員)

○広域観光連携の推進

関門海峡観光推進協議会と長州路観光連絡会の記載があるが、この2つだけなのか。他にあれば等を入れるのが適切では。

○多様な移住者へのアプローチ

ここにUターンの表現を入れた方がわかりやすいと考える。

(観光スポーツ文化部)

○他市との広域観光組織としては、他に西のゴールデンルートアライアンスもあるが、2章2節に記載があるため、本文を「長州路観光連絡会等」に修正する。

(総合政策部)

○ご指摘を踏まえ、UJIターンの促進について追加で記載する。

(委員)

○人口ビジョンや出生率についての意見があったが、全国的な人口減少下において、総合計画の記載も様々で事務局の説明にも理解を示すが、一方で委員も責任感と市長に任された使命感で取り組んでいる。お願いになるが市長の発言したワクワクドキドキとはどういうものが再確認の上、市側も再認識いただきたい。次回会議かその前にでもお示しいただきたい。

(事務局)

○共通認識は非常に大事なので、7/11 審議会（全体会）において説明する。

(副部長)

○若い人の意見を拾い上げる会議体はないのか。まだまだ不十分な点、目が届かない点があると思うので、良い意見があれば拾いあげて欲しい。

(事務局)

○こども未来部には子ども子育て審議会があり、子育て中の両親からの意見を聞くためのアンケートを実施している。その結果が Forkids プランに反映されるようになっている。これらの意見を総合計画にも反映できればと考えている。

(副部長)

○結婚できる年齢の女性の社会進出を妨げなく、働きながら子どもも育てて、そして安心して生めるような場があれば、合計特殊出生率もわずかながら微増しているのではと考える。

(事務局)

○子ども子育て審議会は委員の方全員が本音を言われる会となっている。しっかり反映できているかは課題だと思う。

#### 4 今後の予定

以上